

証人野原駒吉審問調書

一九四六年二月十五日、モスクワ

野原駒吉、一八九九年横濱市（日本）  
ニ生ル、日本人、非黨員  
家族ハ妻ト息子一人、歐洲ニテ中  
等、高等教育ヲ受ケ、バーゼル及  
ヒベルリンニ於テ大學ノ哲學科ヲ  
卒業ス、

一九二二年ヨリ一九三九年迄、歐  
洲、米合衆國、南アメリカ、日本  
ニ住ミ、新聞、雜誌記者トシテ働  
ク、裁刑ヲ受ケタルコトナシ。  
一九三九年九月一日ヨリ一九四五  
年四月二十一日迄ベルリン陸在日  
本大使館ノ新聞報道係ヲ務ム。現  
在ソ聯邦ニ抑留中。

虚偽ノ供述ノ責任ニ關シテ警告サレ、ロシヤ社會  
主義聯邦ソビエト共和國ノ刑法第九五條ガ私ニ  
對シ宣セラレタ。

署名

FILE COPY  
RETURN TO ROOM 361

6x811

2074-1

證人野原駒吉審問調査

一九四六年二月十五日、モスクワ

野原駒吉、一八九九年横浜市（日本）ニ生ル、日本人、非黨員  
家族ハ妻ト息子一人、歐洲ニテ中等、高等教育ヲ受ケ、バーゼル及  
ビベルリンニ於テ大學ノ哲學科ヲ卒業ス、

一九二二年ヨリ一九三九年迄、歐洲、米合衆國、葡アメリカ、日本ニ住ミ、新聞、雜誌記者トシテ働ク、諷刺ヲ受ケタルコトナシ。

一九三九年九月一日ヨリ一九四五年四月二十一日迄ベルリン駐在日本大使館ノ新聞報道係ヲ務ム。現在ソ聯邦ニ抑留中。

虚偽ノ供述ノ責任ニ關シテ警告サレ、ロシヤ社會主義聯邦ソビエト共和國ノ刑法第九五條が私ニ對シ宣セラレタ。

署名

FILE COPY  
RETURN TO ROOM 361

2074-2

審問ハ通譯者ローゼンバウム・イエ・ゲニヨシテ  
露語ニ通譯サレ、日本語テ行ヘル。

正確ナル通譯ノ責任ニ就イテハ、ロシヤ社會主義  
聯邦ソビエト共和國ノ刑法第九五條ニ從ヒ、通  
譯ローゼンバウム・イエ・ゲニ警告セラレタ。

姓名

問。貴方ハ何時、何處デ、赤軍部隊ニヨシテ拘留  
サレタカ。

答。私ハ一九四五年四月二十一日、ベルリン郊外、  
東方四〇軒ノ地蔵ニアルシュユトラウスベルグ市  
ニ於テ赤軍部隊ニヨリ拘留サレタ。

問。何故ニ一九四五年四月二十一日ニ貴方ハ在ベ  
ルリン日本大使館ニ居ラズニ、軍作戦地域デ  
アルシュユトラウスベルグ市ニ居タノデアルカ

答。其レハ私ハ常ニシュユトラウスベルグ市ニ住ン  
デ居タカラデ、其處ニハ私がコノ歳ナ騷亂ノ  
時ニ離レテ住ムノヲ好マナイ私ノ家族が居タ  
カラデアル。最後ニ私が「ベルリン」陸軍日  
本大使館デ仕事シタノハ一九四五年四月十六  
日デ、ソレ以後私ハ「ベルリン」「シュユトラ  
ウスベルグ」間ノ鐵道が破壊サレテキタタメ  
「ベルリン」へ出掛ケルコトハ出来ナカッタ。

問。貴方ニ呈示セラレアル拘留ノ際、赤軍將校ニ

2074-3

ヨツテ貴方ノ所デ発見サレタ、朝鮮及ヒ英露  
ノ書類ノ出所ト、性質ヲ追ベラレタイ。  
何故ニ此ノ書類ガ貴方ノ所ニアツタノデア  
ルカ。

答。私ニ呈示サレタ四枚ヨリ成ル書類ハ、貴族  
ノ所デ発見サレタモノデアリ、其レハ以前在  
ベルリン日本大使館所屬ノモノデアツタ。私  
ハ確信的ナ反ファシストデアリ、日、朝ノ對  
ソ聯邦及ヒ其ノ聯合國トノ戦争反對者デアツ  
タノデ、意識シテ之等ノ書類ヲ私藏シ、之ヲ  
聯合國ノ利益ノ爲ニ利用シヤウト考ヘテキタ  
ト云フノハ私ハ之等ノ書類ニヨツテ平和愛好  
國家ニ對スル戦ヲ奨励シ、自國ト國民ヲ彼局  
ニ投ゲ込メダ日本戦争犯罪者ノ審判ニ何等カ  
ノ援助ガ出來ル日ノ來ル事ヲ信ジテ居タカラ  
デアル。其レ故私ハコノ書類ヲ保管シ、シカ  
モ之ヲ隠匿或ハ破壊セントスルコトナク、私  
ガ一九四五年四月二十一日ニシエトラウスベ  
ルグ市デ拘束サレタ時ニ、書類ヲソヴァイエー  
ト將校ニ手渡シタノデアル。

コノ書類ノ大部分ハ機密デアツタ。私ハ自分  
ノ直接ノ仕事デハ新聞報道係トシテ斯ル書類  
ノ機密書類ニ關係スベキモノデハナカツタケ

2074-4

レドモ、私ハ河原信大使館参事官ヲ通ジテ機  
密事務ニ關係シテキタ。私ノ仕立ハ軍事或  
ハ他ノ機密情報資料ノ整理ヲスルニトデアッ  
テ、此ノ情報ハ大使館ニ於テ恒ニ秘ナモノト考  
ヘラレ其ノ内容ヲ明サレタモノハ大島大使ノ  
外ハ、唯ダ河原参事官ト私ノミデアッタ。私  
ノ所ヲ発見サレタ書類ノ大部分ハ先ニ述べタ  
種類ノ資料ニ屬スルモノデ、赤軍部隊ノ兵員  
及ビ配置、其ノ装備及ビ補給、ソ聯軍需工場及  
其ノ生産品即ち飛行機、戦車又ソ聯邦々人的準備  
等ノ機密資料ノ内容トスル書類ノ寫本デアル。  
斯クノ如キ性質ノソ聯邦ニ關スル軍事情報ヲ  
在ベルリン日本大使館ハ一九四一年カラー九  
四五年迄在モスクワ日本大使館川及ビ佐藤ヨ  
リ暗號電報デ入手シタ。其ノ暗號電報ハ後デ  
河原参事官ト私ニヨツテ整理サレ、獨逸語ニ  
翻譯サレ然ル後在ベルリン日本大使館ハコノ  
情報ヲ獨逸外務省ニ手交シテキタノデアル。

問。貴方ニ一九四五年一月十九日附ノ「ソヴィエ  
ートロシヤノ軍事潜在力」ト題サレタ書類ガ  
呈示サレテキルガ、其レニハソ聯邦ノ飛行機、  
戦車、及ビ石油、其ノ他ノ生産高ノ数字ガ脱  
略サレテキル。何人ニヨツテ、又何時、コノ

2074-4

レドモ、私ハ河原信大使館参事官ヲ通ジテ機  
密事務ニ關係シテキタ。私ノ仕事ハ軍事的或  
ハ他ノ機密情報資料ノ整理ヲスルコトデアツ  
テ、此ノ情報ハ大使館ニ於テ極秘ナセノト考  
ヘラレ其ノ内容ヲ明サレタモノハ大島大使ノ  
外ハ、唯ダ河原参事官ト私ノミデアツタ。私  
ノ所で見サレタ書類ノ大部分ハ先ニ述べタ  
種類ノ資料ニ属スルモノデ、赤軍部隊ノ兵員  
及ビ配置、其ノ装備及ビ補給、ソ聯軍需工場及  
其ノ生産品郵便飛機、戦車又ソ聯邦々人的軍備  
等ニ關スル機密資料ノ内容トスル是等ノ爲本デアル。  
斯クノ如キ性質ノソ聯邦ニ關スル軍事情報ヲ  
在ベルリン日本大使館ハ一九四一年カラー九  
四五年迄在モスクワ日本大使館川及ビ佐藤ヨ  
リ暗號電報デ入手シタ。其ノ暗號電報ハ後デ  
河原参事官ト私ニヨツテ整理サレ、獨逸語ニ  
翻譯サレ然ル後在ベルリン日本大使館ハコノ  
情報ヲ獨逸外務省ニ手交シテキタノデアル。

問。貴方ニ一九四五年一月十九日附ノ「ソヴィエ  
トロシアノ軍事潜在力」ト題サレタ書類ガ  
呈示サレテキルガ、其レニハソ聯邦ノ飛行機、  
戦車、及ビ石油、其ノ他ノ生産品ノ数字ガ脱  
略サレテキル。何人ニヨツテ、又何時、コノ



2074-5

警報ハ作成サレタカ、而シテ数字ノ脱略ハ何  
ヲ意味スルモノデアるか。

答。コノ警報ハ在モスクワ日本大使佐田ヨリ入手  
ノ資料ヲ基トシテ一九四二年一月ニ、私ト河  
原参謀官トニヨツテ作成サレタモノデ、数字  
ノ脱略ハ河原参謀官ニヨツテナサレ、第一篇  
本ニ彼ハ数字ヲ手記シソノマ、獨逸人ニ手渡  
シタノデアル。此ノ情報ヲ河原ハ特ニ機密ナ  
セノト考ヘテキタ。

問。貴方ノ所テ発見サレタ資料ノ中ニ「赤軍ノ兵  
員ニ就テ」ト標題サレタ警報ガアルガ、其レ  
ニハ「一九四二年一月二十一日在モスクワ日  
本大使館附武官ハ我々ヲ通ジテ次ノ情報ヲ外  
務省ニ手交セリ」トノ貴方ノ手記ニヨル註釋  
ガアリ、警報ノ下部ニハ同様貴方ノ手記ニヨ  
ル「一九四二年一月二十二日、本情報ハ獨逸  
總司令官ノ手中ニアリタリ」ト記載サレテア  
ル。コノ警報ニ表明セル貴方ノ註釋ハ何ヲ意  
味スルノカ釋明サレタイ。

答。コノ警報ハ在ベルリン日本大使館ガ一九四二  
年一月二十一日ニモスクワノ日本武官ヨリ入  
手シタ機密情報ノ記録デアリ、ソノ様ニ河原  
参謀官ハコノ情報ノ出所ヲ口頭デ私ニ説明シ

2074-6

タ。ソレヲ査察ニソノ記録ガ私ニヨツテ草稿  
査キカフ復寫サレタノデアル。翌日、一月二  
十二日、私ト河原参事官ガコノ査察ヲ作成シ  
タ後、河原参事官ハ自ラ査察ヲ如邊外務省ニ  
手交シタ。

在ベルリン日本大使館ニヨル聯合國ニ關スル  
機密情報ノ獨逸人ヘノ傳達問題ニ就テ私が眞  
ニ傳ヘテ置キタイコトハ一九三九年ヨリ一九  
四五年ノ間ニ日本大使館ハモスクワ、ロンド  
ン及ビ東京ヨリ資料ノ入手次第私ノ記憶ニヨ  
ルト約四〇通ノ通牒ヲ獨逸人ニ手交シタコト  
デアル。

手交サレタ資料ノ内容ハ主トシテソ聯邦及ビ  
ソノ聯合國ノ軍事經濟力ニ關聯シタモノデ、  
資料ノ一部ハ個々ノ問題ニ關スル特定調査ノ  
綜合報告デ、其ノ他ノ資料ハ戰時中ソ聯邦ヲ  
通過シタ日本人及ビ他ノ外國人ノ個人的觀察  
ノ集成デアツタ。

問。貴方ハ一九四一年ニ締結サレタ日ソ中立條約  
ノ存在ヲ承知デアツタカ。

答。然リ、其ノ條約ノ存在スルコトハ他ノ在ベル  
リン日本大使館員同様私ハ承知シテキタ。

問。何老ノ指令ニヨリ在ベルリン日本大使館ハソ



2074-7

ダイエート聯邦ニ属スル機密情報ヲ獨逸人ニ  
手交シテキタカ。

答。東京カラノ指令ニヨリ又大島大使ノ個人的指  
令ニ依ツテデアル。

問。然ル場合、日本政府及英ノ代理者デアル在ベ  
ルリン大島大使ノ行動ヲ貴方ハ如何ニ考ヘル  
カ。

答。日本ソ聯邦間ノ中立條約ノ存在スル場合、獨  
逸ニ對スルソ聯邦ニ属スル軍事、其ノ他ノ機  
密情報ノ提供ハ、日本側カラノ對ソ戦争ニ於  
ケル獨逸ニ對スル決定的ナ援助トナリ、從ツ  
テ中立條約ノ實際的違反デアル。

大島大使ハ日本政府ノ代理者トシテ全ク日ソ  
中立條約ヲ尊重、遵守シヤウトツナカッタ。  
彼ハ實際行動ニ於テ獨逸、日、伊國ニ存セル所  
謂「防共協定」ト謂ハレルイデオロギー的同  
盟及ビ三國軍事同盟ヲ指導シテキタ。

コノ點ニ於テ大島大使ノ行動ハ日本政府ノ反  
ソ政策ニ全ク一致シ大島ハソノ積極的ナ賛成  
者デアリ、先導者デモアツタ。

問。在ベルリン日本大使トシテノ大島浩ノ活動ニ  
就イテノ意向ヲ述ベラレタイ。

答。獨逸駐劄大使トシテノ大島ノ活動同様ニ彼ノ

2074-7

ダイエート聯邦ニ關スル機密情報ヲ獨逸人ニ  
手交シテキタカ。

答。東京カラノ指令ニヨリ又大島大使ノ個人的指  
令ニ依ツテデアル。

問。然ル場合、日本政府及兵ノ代理者デアル在ベ  
ルリン大島大使ノ行動ヲ貴方ハ如何ニ考ヘル  
カ。

答。日本ソ聯邦間ノ中立條約ノ存在スル場合、獨  
逸ニ對スルソ聯邦ニ關スル軍事、其ノ他ノ機  
密情報ノ提供ハ、日本側カラノ對ソ戰爭ニ於  
ケル獨逸ニ對スル決定的ナ援助トナリ、從ツ  
テ中立條約ノ實際的違反デアル。

大島大使ハ日本政府ノ代理者トシテ全ク日ソ  
中立條約ヲ尊重、遵守シヤウトシナカツタ。  
彼ハ實際行動ニ於テ獨逸、日、伊國ニ存セル所  
謂「防共協定」ト謂ハレルイデオロギー的的同  
盟及ビ三國軍事同盟ヲ指導シテキタ。

コノ點ニ於テ大島大使ノ行動ハ日本政府ノ反  
ソ政策ニ全ク一致シ大島ハソノ積極的ナ達成  
者デアリ、先導者デモアツタ。

問。在ベルリン日本大使トシテノ大島浩ノ活動ニ  
就イテノ意向ヲ述べラレタイ。

答。獨逸陸軍大使トシテノ大島ノ活動同樣ニ彼ノ

2074-8

政治的価値モ以上私が充分信ぜざるが、尙  
次ノ事ヲ聞ケ加ヘタイ。

大島浩ハ獨逸ニアツシズムノ絶對的親戚者デ  
アリ、ソ聯邦、英國及米國ノ不保護天ノ實デ  
アル。一九四〇年ニベルリン駐在日本武官ト  
シテ滞在申後ハ日、獨、伊ノ軍事同盟締結ニ  
多大ノ助力ヲシタ。

奉天會戰（一九〇四年—一九〇五年）ノ日露戰  
役ニ於ケル日本軍ノ勝利ノ紀念日ノ祝賀ノ  
時ニ、大島ハベルリンニ於ケル宴席デ「私ハ  
ロシアノウオツカヲ飲ミ、ロシアヲ飲ムコト  
ヲ考ヘテキルト云ツタ。

大島大使ノ獨逸國力ニ對スル絶對的テ信奉ハ  
大使館内ノミデナク、獨逸人間ニモ有名デア  
ッタ。

ゲーリング、カイテル、ヒムラー其ノ他獨逸  
著名ノ指導者達ガ屢々大島大使ニヨツテ大使  
館ノ宴會ニ招待サレタ。一度ハヒットラーモ  
訪問シタ。ゲーリングハ屢々ナガラ大使館ヲ  
訪問シテキタ。（彼ハ日本人ニ對スル嫌惡ヲ  
種クサナカッタ。）ガ然シ其ノ代リヒムラー  
ト他ノ指導者達ハ頻リト大島ヲ訪問シ、又代  
リニ彼ヲ自分ノ所ニ招待シテキタ。

2074-8

政治的積極セ以上私が充分注意ツケムガ、尙  
次ノ事ヲ附ケ加ヘタイ。

大島浩ハ獨逸ニアツシズムノ絶對的親戚者デ  
アリ、ソ聯邦、英國及米國ノ不保護天ノ境デ  
アル。一九四〇年ニベルリン駐在日本武官ト  
シテ滞在シ、彼ハ日、獨、伊ノ軍事同盟締結ニ  
多大ノ助力ヲシタ。

奉天會戰（一九〇四年—一九〇五年）ノ日露戰  
役ニ於ケル日本軍ノ勝利ノ紀念日ノ祝賀ノ  
時ニ、大島ハベルリンニ於ケル宴席デ「私ハ  
ロシアノウオツカラ飲ミ、ロシアヲ飲ムコト  
ヲ考ヘテキルト云ツタ。

大島大使ノ獨逸國力ニ對スル絶對的テ信奉ハ  
大使館内ノミデナク、獨逸人間ニモ有名デア  
ッタ。

ゲーリング、カイテル、ヒムラー其ノ他獨逸  
著名ノ指導者達ガ屢々大島大使ニヨツテ大使  
館ノ宴會ニ招待サレタ。一度ハヒットラーモ  
訪問シタ。ゲーリングハ屢々ナガラ大使館ヲ  
訪問シテキタ。（彼ハ日本人ニ對スル嫌惡ヲ  
隠クサナカッタ。）ガ線シ其ノ代リヒムラー  
ト他ノ指導者達ハ頻リト大島ヲ訪問シ、又代  
リニ彼ヲ自分ノ所ニ招待シテキタ。

[illegible]

2074-10

テ、日本ハ太平洋ノ防衛ニアタルデアラウト云フニアツタ。大島ハ河原泰壽官ト私ヲ招キ、意見ヲ懇請シタ。河原ト私ハ電報ニヨツテ判斷スレバ、日本ハソノ聯邦ニ對シテ行動ヲ起サナイデアラウト開陳シタ。大島ハ「太平洋ノ防衛」ハ日本ノ對ソ戦争ヲ意味スルト、反對ノコトヲ斷言シタ。不明瞭ナ電報ヲ激怒シタ大島ハ原文ノ字句ヲカヘズ又英語ヲ獨逸語ニモ翻譯セズ、電報ヲ受取ツタマ、ノ情態ヲ獨逸人ニ手渡ス様ニ命ジタ。獨逸人ノ回答ハ私ニハ不明デアツタ。

ヒットラーノ著書「吾ガ國爭」ニ記述サレテキル所謂民族優越ノ「理論」ニ大島ハ全ク共鳴シテニタ。他ノ日本人ガヒットラーガ日本人ニ關シテモ低級ナル人間トシテ記述シテキルト大島ニ指摘スルト、大島ハソレハヒットラーノ誤謬デアリ、著作ノ適當ナ修正ヲ著者ニ懇請スルデアラウト云ツテニタ。

自國、ヨウロツバ諸國及ビソ聯邦ノ被占領地域ニ於ケルヒットラーノ宣傳者ノ野蠻的行爲ニ關スル周知ノ事實ヲ大島ハ全ク見過シ、コレハ全部「虚偽」デアリ、實ノ宣傳デアリ事實無



2074-11

退テアルト見做シタ。

大島ノ親遊人ニ對シテノ懇切ト服従ハ本質ニ於テ限リガナカッタ。大使館ヲ圍ガセタ日本ノ埃村教授ノ事件ハ、ソノ實例デアル。埃村ハ日本冶金債集全案合同ノ派遣ヲ親遊ニ滯在中一九四三年或ハ一九四四年瑞興ニ旅行シ、其處デ彼ハ親遊ハ債ノ不足デ戦争ニ貢ケルデアラウト英國新聞記者ニ合見談話ヲシ又一般的ニ親遊ヲアシズムヲ非難シタ。親遊側ノ抗議ニ關聯シ、彼等ト大島トノ間ニ三回ニ亘ル通牒ノ往復が生ジタガ、其後ノ通牒ニ於テ大島ハ親遊人ニ埃村ヲ秘密警察ノ手ニ渡スコトニ對シテ抗議ハシナイト報告シタ。コノ事實ハ私自身が技術的ニ通牒ヲ作成シタ故確實デアル。

コノ大島ノ行爲ハアシスト員氣ノ日本人間ニ於テモ相當ナ騷擾ヲ呼ビ起シタ。其ノ後ノ埃村ヲ運命ニ就テハ私ハ知ラナイ、ナゼナラバ彼ハ大使館外ニ居住シテキタノデ私ハ彼ヲ見掛ケナカッタ。

大島ニ最も親シイ人々ハ陸軍武官「バンザイ」「小松」ノ兩將軍及ビ海軍武官「横井」ト「

2074-12

小島「デアリ、大島ハ常ニ彼等ノ社會ニ出入  
シテキタ。ソレハ彼等ハ嘗テ、アシスト員氣  
デアツタカラデアル。

後ニ、獨逸ニ於ケル最後ノ段階ニ於テモ大  
島ハ獨逸ノ能力ニ對シテ限リ無イ狂信ヲ持ツ  
テキタ。即チ一九四五年四月ベルリンニ於テ  
狀勢ハ危機ヲ孕ミツツアツタ時ニ、大島ハ南  
獨逸ヘ移轉セヨト獨逸側ノ申シ出ヲ容レタ。  
ソレト云フノセ獨逸ガ南獨逸ニ於テ長期抗戰  
ヲ續行出來ルトイフコトヲ信ジタカラデアル。  
一九四五年四月十四日大島ハ大使館ト共ニザ  
ルツブルグ市南方ノバトーガシェイシ市ニ  
向ツテ自動車テ出立シタ。

ソノ時カラ私ハ大島ニ就テノ情報ヲ持タナイ。  
ベルリンニハ獨逸内閣ノ各大臣トノ連絡ノ爲  
ニ河原參事官、外交隨員一名、日本領事ト二  
一三ノ隨員ガ獨ツタ。

私ハ審問ノ冒頭ニ供述シタ原因ニヨリ留マツ  
タ。敘述事項ハ私ノ言葉カラ正シク記載サレ、  
私ニ日本語ニ通譯サレタ。

審問開始 十七時

野 原

〃 終了 二一時

審問者

陸軍中佐ベトロフ

通 譯

ローゼンバウム

一九四五年（昭和二十年）一月十九日

秘

### 「ソヴィエト」露西軍ノ戦力

「ソヴィエト」露西軍ノ戦局ノ有様ヲ展開トソノ  
失地ノ回復ハ早ニ能動的ノミナラズ物質的ニモ「ソ  
ヴィエト」露西軍戦力ノ強化ヲ言フシタ。遂ニ工  
業ハ戦前ノ生産状態ニ未ダ到達シテキナイト云へ  
然レバ、食糧、皮革、船舶、石炭、石油、銅、鉛、鋅、鉄  
ノ軍需物資ノ生産ハ増加シタ。奪同セル地域ノ再建  
ハ既ニ開始セラレタガ、然シ未ダ「ソヴィエト」  
露西軍ハ軍需工業ノ兵器ニ際シ、大イニ外敵カラノ  
援助ニ頼ツテキル。

食糧ノ分野ニ於テハ奪同セル地域ニ於ケル復興ハ  
比較的急速デアリ、素敵ニ、昨年ノ豊作ニ値ミ食糧  
不足ニヨル露西軍戦力ノ回復ハ考ヘラレナイ。露西  
軍及ビ身備者ハ從來ノ能力ヲ維持シ得ル。露西軍  
ニ於ル愛國運動、政府ノ宗教ニ對スル友好的態度  
ニ多クノ経済的方策ハ國民精神ノ復興ニ役立ツタ。  
總体的ニ云ツテ「ソヴィエト」露西軍ノ戦力カ可  
成リ増強サレタ事ハ確かデアル。

### 軍需物資ノ生産

2074 appendix - 2

航空機——一九四四年十二月ノ月産——  
 一九四四年四月迄ニ外國ヨリ輸入セラレタ航空  
 機——  
 毎月平均供給——  
 對獨第一線ニ配置セラレタル航空機——  
 東部「ソヴィエト」領ニ配置セラレタル航空  
 機——  
 戦車——一九四四年十二月ノ月産——  
 一九四四年四月迄ニ外國ヨリ輸入セラレシ戦車  
 機——  
 (毎月平均——)  
 各戦線ニ於ケル戦車ノ配置  
 對獨邊——  
 東部「ソヴィエト」領——  
 船舶——一九四四年ニ建造サレシ船舶機、十隻、  
 總噸數——二〇〇〇〇噸  
 石炭「ドネツ」盆地ニ於ケル炭坑ノ再建ハ若  
 シキ進展ヲ爲サナカツタ。一九四四年末同盆地  
 ノ日産ハ七五乃至一〇〇〇〇〇噸デアツタ。然  
 シ、「アラガンダ」及「ウズベキスタン」礦區  
 デハ増産ノ見込ガアル。「ソヴィエト」露西軍ノ  
 石炭生産ハ一九四四年ニハ一三〇〇〇〇〇〇噸デ  
 アツタ。

2074 Appendix-3

石油——一九四四年ノ石油ノ生産ハ「ルーマニア」  
及ビ「ポランド」ノ油田ヲ害メテハ〇〇〇〇〇〇  
〇噸デアツタ。

一九四四年四月迄ニ外國ヨリ輸入サレタル航空機用  
「ガソリン」ノ量——（毎月平均量——）

及ビ銅——「ドネツ」盆地ノ銅工業ハ未ダ充  
分ニ復興セラレテハキナイガ、然シ「ウラル」地方  
及ビ「ウズベキスタン」ニ於テ増産ノ可能性ガアル。

銅ノ生産——一九四四年——一〇〇〇〇〇〇〇噸

「アルミニウム」——一九四四年ノ生産——一〇  
〇乃至一〇〇〇〇〇噸——一九四四年四月迄ノ外國カラ  
ノ輸入——（毎月平均量——）

銅——一九四四年ノ生産——一〇〇〇〇〇〇噸

一九四四年四月迄ノ銅及銅製品ノ輸入——一〇〇〇〇〇  
〇噸

自動車——一九四四年ノ生産——一〇〇〇〇〇〇台

一九四四年四月迄ノ外國ヨリノ輸入——一〇〇〇〇〇  
台

### 人 的 資 源

動員兵力数——人

開戦以降ノ全損害、——一〇〇〇〇〇〇〇人

動員可能豫備兵力数、——乃至一〇〇〇〇〇〇〇人

初級戦線ニ配置セラレシ兵力数——人

2074 appendix-4

同、東部「ソヂイェイト」領「」人  
 軍事労働配置ニ於ケル労働力「」人  
 内、男子労働者「」人、女子労働者  
 「」人  
 配置可能ナル潜在労働力三乃至五「」人

食糧状態

一九四四年ニ於ケル穀類ノ生産「」人  
 「」人  
 等々、

〔字記〕

一九四二年一月二十一日在「モスコウ」日本  
 大使信付武官以下ノ報告ヲ我々ノ手ヲ經テ  
 獨逸外務省ニ送ツタ

秘「ソヂイェイト」露西亞ノ兵力ニ關シテ

「」參謀本部ニ送シタル情報ニ依レバ一九四  
 一年十二月初旬ニ於ケル「ソヂイェイト」露西亞ノ  
 兵力状態ハ次ノ如シ

獨逸侵襲前ノ露西亞陸軍兵力

隊 露

歩兵「」一四六個師團



2074 Appendix-5

騎兵	：	：	：	：	：	：	二七〇	個	目
機甲	：	：	：	：	：	：	三五	〃	〃
合計							二〇	〃	〃

恒 東

歩兵	：	：	：	：	：	：	二五〇	個	目
騎兵	：	：	：	：	：	：	二〇	〃	〃
機甲	：	：	：	：	：	：	五	〃	〃
合計							三〇	〃	〃

開戦後動員ニヨリ増強セラレタル第四軍ノ兵力

總兵力 三〇〇—三五〇個目

戦争中ノ損害（一九四一年十二月初旬迄）

歩兵	：	：	：	：	：	：	二一五	—	二二〇	個	目
騎兵	：	：	：	：	：	：	一五	—	二〇	〃	〃
機甲	：	：	：	：	：	：	二〇	—	二二	〃	〃

等

〔手記〕

此ノ報告ハ一九四二年一月二十二日洞達軍長高司令官ノ手中ニ在ツタ。